

Top Message

ごあいさつ

当社グループが持つ多様性と独自性を
最大限に発揮することで、新しい
価値の創造と成長を
目指してまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣 士



株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

また、本年3月の東日本大震災により被災された株主の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当期のご報告

さて、当社グループの第158期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の連結業績についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、第3四半期に入り景気対策の縮小や円高の影響などにより、回復のペースに一服感がみられたものの、海外経済の改善を背景に、総じて緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大した他、米国、欧州においても、緩やかながら回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、

国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前期の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前期を大きく上回りました。

この結果、当期の連結業績は、売上高は前期に比べ1,875億円増収の1兆8,585億円となり、営業利益は、前期に比べ785億円増益の1,245億円、経常利益は、前期に比べ788億円増益の890億円となりました。また、当期純利益は、前期に比べ466億円増益の529億円となりました。

当期の配当について

当期の期末配当につきましては、継続的かつ安定的な実施を基本としつつ、当期の利益水準、配当性向、将来の成長のために必要な投資資金、財務状況などを総合的に勘案し、1株に

つき1円50銭とさせていただきます。これにより、当期の配当は、先にお支払いいたしました中間配当と合わせて、前期に比べ1株につき1円50銭増配の年3円となります。

今後の取組みについて

本年3月11日に発生した東日本大震災では、当社グループ従業員への人的被害や、生産設備への致命的な被害は生じなかったものの、需要家の皆様をはじめ各方面に多大な影響が及んでおります。3ヶ月以上経過した現時点でも、その影響の範囲や程度、期間を見極めることは困難であります。当社グループも何らかの影響を少なからず受けることは避けられません。足下は厳しい状況ではありますが、これらの影響を適宜見極めながら、柔軟かつ適切に対応してまいります。

一方で、当社グループが今後の事業展開を考える上で認識しなければならない中長期の事業環境については、少子高齢化、製造業の国外移転などを背景に、国内需要の減少、新興国を中心とした海外需要の伸長が進み、加えて、温暖化ガス問題が世界的に深刻になるにつれ、国内の操業制約や、自動車のハイブリッド化、電気自動車の普及など、低炭素社会に向けて、需要構造が急速に変化していくという基本的な構図は変わらないものと見ております。足下は先行き不透明な環境にあるものの、当社グループはこの様な中長期の事業環境の大きな流れを見失わずに経営を進めていきたいと考えております。

経営の指針として、当社グループでは、平成22年4月に「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION “G”』」を策定しておりますが、このビジョンでは、5年から10年後に目指す神戸製鋼グループ像として「グローバル市場において存在感のある企業グループ」、「安定収益体質と強固な財務基盤を備え持つ企業グループ」、「株主・取引先・従業員・

社会と共栄する企業グループ」の3つを掲げています。

当社グループは、このようなグループ像の実現に向けて、まず、安全・コンプライアンスへの取組みを徹底し、その上で、「オンリーワンの徹底的な追求」、「『ものづくり力』の更なる強化」、「成長市場への進出深化」、「グループ総合力の発揮」、「社会への貢献」の5つの基本方針に沿って事業運営を行なっております。

具体的には、本社部門に新設した「ものづくり推進部」を中心に、グループ内の先進的取組み事例の共有や、製造拠点間の交流促進など、グループ内に横串を通す活動も積極的に進めているほか、中国でのビジネス展開を強化するため、中国に事業統括会社を設立しました。

事業分野別でも、各種の施策を実行に移しており、例えば素材系の事業では、自動車用冷延ハイテンの北米での供給体制構築のため連続焼鈍設備の建設を決定したほか、溶接材料の中国での製造販売拠点の増強、アルミ鍛造部品の中国での生産販売会社の設立を進めております。また、機械系の事業では、汎用圧縮機の中国での生産能力増強やインドでのタイヤ・ゴム機械の製造販売会社設立を決定し、還元鉄ビジネスのベトナムやインドでの事業化調査も開始しました。また、建機事業における中国の製造体制の強化、インドへの進出などにも着手しております。

当社グループは、現在世界各地で進めているこのような施策を通じて、海外の成長地域における需要の着実な取込みに努めるとともに、我々が持つ多様性と独自性を最大限に発揮することで、当社グループとしての新しい価値の創造と成長を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

連結

売上高

1兆8,585 億円
(前年同期比 +11.2%)



営業損益

1,245 億円
(前年同期比 +170.7%)



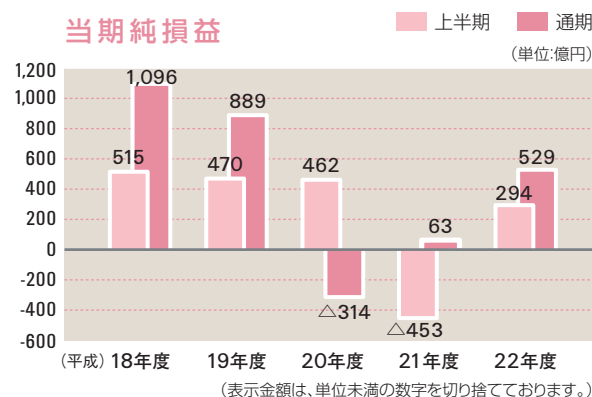
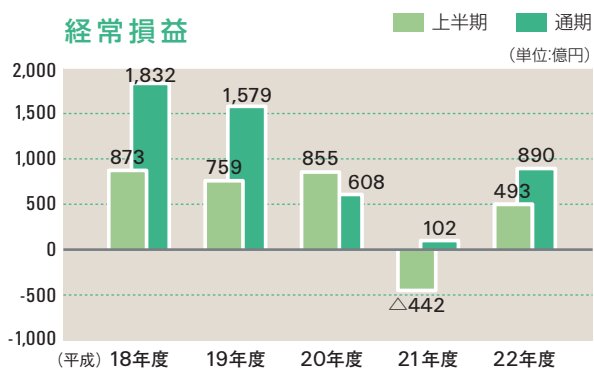
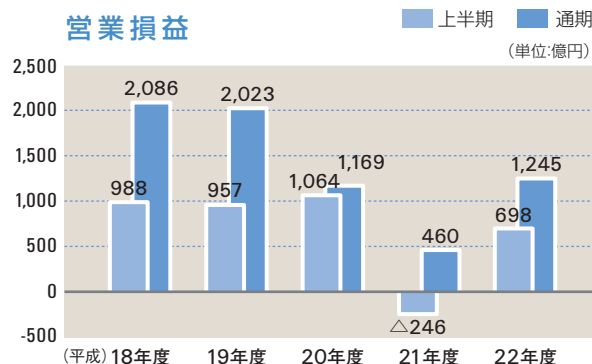
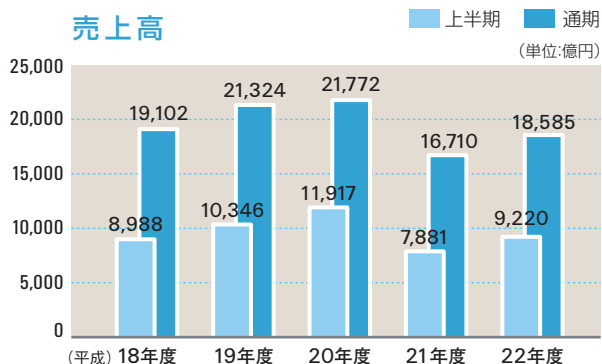
経常損益

890 億円
(前年同期比 +768.4%)



当期純損益

529 億円
(前年同期比 +739.7%)



当期の概況

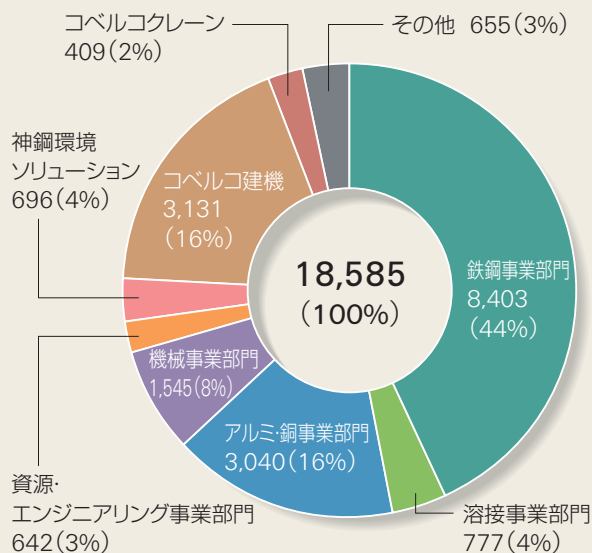
当期のわが国経済は、第3四半期に入り景気対策の縮小や円高の影響などにより、回復のペースに一服感がみられたものの、海外経済の改善を背景に、総じて緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大した他、米国、欧州においても、緩やかながら回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前期の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前期を大きく上回りました。

この結果、当期の連結業績は、売上高は前期に比べ1,875億円増収の1兆8,585億円となり、営業利益は、前期に比べ785億円増益の1,245億円、経常利益は、前期に比べ788億円増益の890億円となりました。また、当期純利益は、前期に比べ466億円増益の529億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ991億円増収の1兆901億円、営業利益は493億円増益の505億円、経常損益は409億円増益の281億円の利益となりました。また、当期純利益は、前期に比べ275億円増益の303億円となりました。

事業別売上高(平成22年度) (単位:億円)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額716億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,585億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)

鉄鋼事業部門

8,403 億円
(前年同期比 +13.2%)



鋼材需要は堅調に推移しました。

- 鋼材販売数量は、国内外における製造業向けの需要が総じて堅調に推移し、前期比増加。
- 鋼材販売単価は、原材料価格が値上がりした影響などにより、前期比上昇。
- 鋳鍛鋼品の売上高は、造船向けの需要が減退したことなどから、前期比減少。
- チタン製品の売上高は、需要家の在庫調整進展などにより、前期比増加。

- 経常損益は、在庫評価影響の大幅な改善もあり、前期比484億円増益の237億円の利益。



加古川製鉄所 高炉夜景



溶接事業部門

777 億円
(前年同期比 +2.1%)



溶接材料の販売数量は海外を中心に増加しました。

- 溶接材料の販売数量は、中国、東南アジア、韓国などアジア地域での需要が堅調に推移し、海外を中心に前期比増加。
- 溶接システムの売上高は、中国の建設機械分野向けの需要が旺盛に推移。
- 経常利益は、前期比28億円増益の46億円。



溶接材料



アルミ・銅事業部門

3,040 億円
(前年同期比 +16.1%)



アルミ製品、銅製品ともに、需要は堅調に推移しました。

- アルミ圧延品販売数量、アルミ鋳鍛造品売上高は、自動車、エアコン向けや液晶・半導体製造装置関連を中心に需要が堅調に推移し、前期比増加。
- 銅圧延品の販売数量は、板条の需要は第3四半期に入り半導体向けなどで需要家の在庫調整があり減少したものの、通期では堅調に推移。
- 銅管の需要は猛暑によりエアコン向けが増加し、前期比増加。
- 販売価格に転嫁される地金価格は上昇。
- 経常利益は、前期比125億円増益の147億円。



長府製造所



機械事業部門

1,545 億円
(前年同期比 △11.1%)



自動車および石油精製・石油化学業界などで設備投資が、緩やかに回復しました。

- 自動車および石油精製・石油化学業界などで設備投資が、緩やかに回復し、関連製品の受注高は、前期比増加。
- 当事業の受注高は前期比41.4%増の1,407億円。当期末の受注残高は1,522億円。
- 売上高は、大型の石油精製用高圧反応器の売上計上が集中した前期に比べ減少。
- 経常利益は、前期比63億円減益の145億円。



石油精製向け 大型高圧水素圧縮機



資源・エンジニアリング 事業部門

642 億円
(前年同期比 △2.0%)



大型還元鉄プラントを
受注しました。

- 大型還元鉄プラントを受注し、当事業の受注高は、前期比増加。
- 当事業の受注高は、前期比87.0%増の753億円。当期末の受注残高は、956億円。
- 経常利益は、売上案件の構成が異なったことなどから、前期比16億円減益の30億円。



還元鉄プラント(インドネシア)



神鋼環境 ソリューション

696 億円
(前年同期比 △16.0%)



大型の下水汚泥焼却処理設
備や廃棄物処理施設を受注
しました。

- 大型の下水汚泥焼却処理設備や廃棄物処理施設を受注し、当事業の受注高は、前期比11.0%増の648億円。当期末の受注残高は、350億円。
- 売上高は、大型の廃棄物処理施設の売上を計上した前期と比べ、減少。
- 経常利益は、コスト削減に取り組んだことなどから、前期比14億円増益の31億円。



兵庫西流域下水汚泥焼却処理場



コベルコ建機

3,131 億円
(前年同期比 +45.9%)



主力市場である中国で販売台
数が大幅に増加しました。

- 主力市場である中国での販売台数が、前期比大幅増加。
- 需要の回復が続く東南アジアや、需要が持ち直した国内の販売台数も、前期比増加。
- 経常利益は、前期に比べ207億円増益の263億円。



ハイブリッド油圧ショベル「SK80H」

※平成22年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)受賞



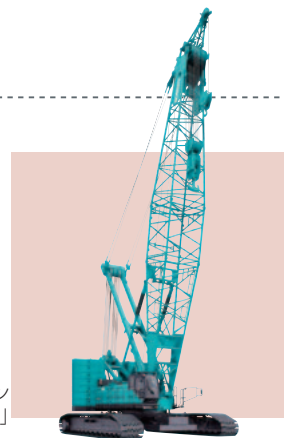
コベルコクレーン

409 億円
(前年同期比 △25.8%)



一部地域を除き需要が低迷しました。

- アジアの一部地域を除き需要が低迷し、販売台数は、前期比減少。
- 経常損益は、前期に比べ25億円減益の13億円の損失。



クローラクレーン
「CKE2500G」

etc

その他

655 億円
(前年同期比 △15.7%)



試験分析事業の需要が回復しました。

- 不動産販売において、分譲マンションの引渡戸数が減少。
- 試験分析事業において、輸送機、エレクトロニクス業界向けを中心に需要が回復。
- 経常利益は、前期比34億円増益の64億円。



神戸ハーバータワー
完成予想図



リチウムイオン二次電池評価設備
(充放電試験装置)

業績に関する詳しい説明は、当社ホームページでご覧いただけます。当社ホームページでは、決算短信、IR説明会資料などを掲載しているほか、事業に関するご紹介も掲載しております。是非、一度ご覧ください。

当社ホームページアドレス <http://www.kobelco.co.jp>



● 全社 ● 鉄鋼事業部門 ● 資源・エンジニアリング事業部門 ● 機械事業部門 ● コベルコ建機

2010 (平成22年)

11月

鉄鋼事業部門

資源・エンジニアリング事業部門

インド国営製鉄会社SAIL社と包括的覚書締結

当社とインドの国営製鉄会社Steel Authority of India Limited(以下SAIL社)はインドならびにその他の地域における鉄鋼業および鉄鋼関連事業において、協力・協業できる技術・プロジェクト等を共同で検討することに合意し、包括的覚書を締結しました。

SAIL社とは既に当社が独自に開発した新製鉄法ITmk3®技術を活用した共同事業について事業化検討を進めていますが、今回の覚書締結は、この関係をさらに発展させることを目的としたものです。両社は上工程から下工程に至るまで幅広い分野で協力関係を構築し、拡大するインド市場、その他の地域での需要の取込みに努めてまいります。



調印式

12月

鉄鋼事業部門

北米での自動車用冷延ハイテンの連続焼鈍設備建設合意

米国のプロテック コーティング社に自動車用冷延ハイテン(高張力鋼板)を製造するための連続焼鈍設備を新たに設置することについて、合併相手である米国United States Steel Corporation(USS社)と合意しました。自動車用冷延ハイテンは、衝突安全性能と車体軽量化による燃費性能を両立させるニーズの高まりを背景に、北米においても需要拡大が見込まれますが、現在供給可能なメーカーが限られています。プロテック コーティング社が長年積み重ねてきた熔融亜鉛めっき鋼板の納入実績と、当社加古川製鉄所で培った冷延ハイテンに関する技術優位性とを、今回のプロジェクトで組み合わせ、拡大する需要の取込みに努めてまいります。



プロテック コーティング社

2011 (平成23年)

1月

● インドにL&T社と合併でタイヤ・ゴム機械の製造販売会社設立

● 世界初、「軸流式水冷媒冷凍機」の試作機完成
(自然冷媒「水」を用いた冷凍機の本格実用化に大きく前進)

● 中国における事業を統括する「神鋼投資有限公司」を設立

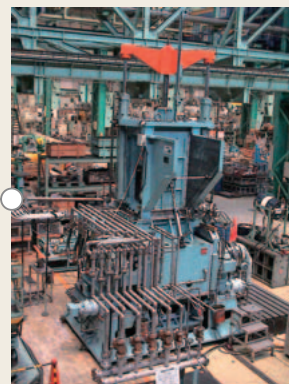
2月

● 当社の「環境・社会報告書2010」が第14回環境報告書賞(東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム主催)の優良賞を受賞

3月

● 最新鋭大型鍛造プレスによる航空機等鍛造品製造会社を共同設立

● コベルコ建機が広島地区にグローバルエンジニアリングセンターおよび新工場建設を決定



ゴム混練機



環境・社会報告書2010

環境への取組みと 社会との共生



神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』

—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

■高効率蒸気供給ヒートポンプシステム 「スチームグロウヒートポンプ」を製品化

神戸製鋼は、東京電力(株)、中部電力(株)、関西電力(株)とともに、世界で初めて120～165℃の蒸気を高効率に供給することができるヒートポンプシステムを共同開発しました。

このシステムでは、高圧縮比・高温対応スクリュウ圧縮機の開発や、圧縮機モーターの高温対応化、高温に適した冷媒の採用などにより、120℃以上の高温蒸気の供給が可能となりました。生産工程からの温排水や、低温度熱源水(25℃～65℃)からの熱回収により、従来のガスボイラに比べ約6割の省エネルギーと約7割のCO₂排出量削減を達成しています。

これにより、蒸気を使用する多くの工程において、ヒートポンプシステムの適用範囲が拡大し、さまざまな工場での採用が見込まれます。



高効率蒸気供給システム「SGH120」

■ハイブリッド油圧ショベルで環境大臣表彰を受賞

コベルコ建機は、現行機に比べ40%ものCO₂削減を実現した8t級ハイブリッド油圧ショベル「SK80H(本体型式SK80H-2)」で、平成22(2010)年度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)」を受賞しました。同賞は平成10(1998)年に創設され、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人・団体に贈られます。

コベルコ建機では、1999年からNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)および神戸製鋼と共同で研究を進め、2006年に世界初のハイブリッドシステム採用の油圧ショベル開発に成功し、さらに高度化を進めてきました。その成果のひとつであるSK80Hは、2010年6月には国土交通省「低炭素型建設機械」(平成22年4月創設)の第1号機として認定登録されました。

ハイブリッドシステムを軸にした低燃費技術は、他機種への展開も積極的に行い、製品を通じた低炭素社会の実現に向けていっそうの貢献をしていきます。



2010年12月に行われた授賞式の様子



ハイブリッド油圧ショベル「SK80H」

社会貢献への取り組み

次世代の育成支援

神戸製鋼グループは、未来を担う子供たちの健やかな成長をお手伝いするため、従業員による小学校での出張授業などの活動や、地域交流施設灘浜サイエンススクエアでの自然教室の開催などに取り組んでいます。

世界各地の事業所でも、例えば、プロテック コーティング社(米国)では、従業員が地元小学校の子供たちと交流したり、コウベ プレジジョン テクノロジー社(マレーシア)では、事故などで親をなくした子供たちの施設に冷蔵庫やスポーツウェア、支援金の寄付を行なうなど、様々な活動を行なっています。

このほか、2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」でも、子供たちを対象に毎年様々な支援を行なっています。2010年度は、子育て支援センターや小学校、保育所の教材や遊具の購入支援などを全国の各事業所で行ないました。

復旧・復興への支援

神戸製鋼グループは、阪神・淡路大震災の際、多くの方々から温かいご支援をいただきました。その感謝の気持ちを忘れず、災害からの復旧・復興支援などにも取り組んでいます。

2010年に発生したハイチ大地震では義捐金の寄付を、



寄贈した建設機械(同機種)



チャリティーイベントの様子

神戸製鋼グループは、今後も、こうした活動を継続し、社会との共生を目指してまいります。



寄贈された鉄棒で遊ぶ子供たち



出張授業



施設への訪問、支援活動

チリ大地震では、被災した高炉復旧のための技術者派遣を行ないました。

また、このたびの東日本大震災でも、義捐金と建設機械7台などの救援物資をご提供したほか、ラグビー部によるチャリティー交流会の開催、選手による防寒着の寄付なども行ないました。



支援物資提供の様子

Corporate Data

事業分野

(平成23年3月31日現在)

■鉄鋼事業部門

条鋼(普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼)、鋼板(厚板、中板、薄板<熱延・冷延・表面処理>)、鋼片、鋳鍛鋼品(船用部品・電機部品・産業機械部品等)、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、電力卸供給

■溶接事業部門

溶接材料(各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス)、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

■アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品(飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔)、銅圧延品(半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管)、アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品(航空機用部品、自動車用部品等)、アルミ加工品(自動車用部品、建材、建設用仮設資材等)

■機械事業部門

エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント(製鉄圧延、非鉄等)、各種内燃機関

■資源・エンジニアリング事業部門

製鉄プラント(還元鉄)、各種プラント(ペレタイジング、石油化学等)、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム

■神鋼環境ソリューション

水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品関連機器

■コベルコ建機

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ

■コベルコクレーン

クローラークレーン、ラフテレーンクレーン、作業船

■その他

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、高压ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

連結子会社および持分法適用会社 [207社]

(平成23年3月31日現在)

■鉄鋼事業部門：40社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、神鋼建材工業株式会社、神鋼神戸発電株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング & メンテナンス、株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、神鋼鋼線工業株式会社、関西熱化学株式会社、株式会社テザックワイヤロープ、*プロテック コーティング CO. 他

■溶接事業部門：22社

エヌアイエル株式会社、青島神鋼溶接材料有限公司、コウベ ウェルディング オブ コリア CO.,LTD. 他

■アルミ・銅事業部門：26社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、サン・アルミニウム工業株式会社、コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC、コウベ プレジジョン テクノロジー SDN.BHD.、コウベ エレクトロニクス マテリアル(タイランド)CO.,LTD.、シンガポール コウベ PTE.LTD. 他

■機械事業部門：14社

コベルコ・コンプレッサ株式会社、神鋼造機株式会社、神鋼圧縮機製造(上海)有限公司 他

■資源・エンジニアリング事業部門：20社

ミドレックス テクノロジーズ ,INC. 他

■神鋼環境ソリューション：6社

株式会社神鋼環境ソリューション、神鋼環境メンテナンス株式会社 他

■コベルコ建機：36社

コベルコ建機株式会社、東日本コベルコ建機株式会社、西日本コベルコ建機株式会社、成都神鋼工程機械(集団)有限公司、成都神鋼建設機械有限公司、杭州神鋼建設機械有限公司、成都神鋼建機融資租賃有限公司、タイ コベルコ コンストラクション マシナリー LTD.、コベルコ インターナショナル シンガポール CO.,PTE.LTD.、*コベルコ コンストラクション マシナリー アメリカ LLC 他

■コベルコクレーン：11社

コベルコクレーン株式会社 他

■その他：32社

神鋼不動産株式会社、株式会社コベルコ科研、神鋼投資有限公司、コウベ スチール USA ホールディングス INC.、*神鋼商事株式会社、日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)※印は持分法適用会社であります。

取締役および監査役、執行役員

(平成23年6月23日現在)

取締役社長(代表取締役)
佐藤 廣士

■本社

取締役副社長(代表取締役)
賀屋 知行

常務執行役員
川崎 博也

執行役員
山口 貢

取締役副社長(代表取締役)
藤原 寛明

常務執行役員
金子 明

執行役員
森地 高文

専務取締役
関 勇一

常務執行役員
花岡 正浩

常務執行役員
沖田 誠治

執行役員
杉嶋 康昭

■鉄鋼事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*山口 育廣

常務執行役員
宮脇 新也

執行役員
藤井 晃二

常務執行役員
尾上 善則

執行役員
宮下 幸正

執行役員
後藤 隆

常務執行役員
塚本 晃彦

執行役員
岩佐 道秀

執行役員
水口 誠

常務執行役員
梅原 尚人

執行役員
河瀬 昌博

■溶接事業部門

専務取締役
*粕谷 強

常務執行役員
高村 実朗

■アルミ・銅事業部門

専務取締役
*高橋 徹

執行役員
佐藤 孝彦

専務執行役員
下村 良介

執行役員
柴田 順行

■機械事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*重河 和夫

常務執行役員
楢木 一秀

執行役員
大濱 敬織

■資源・エンジニアリング事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*松谷 高志

専務執行役員
田中 順

常務執行役員
眞部 晶平

■社外取締役

取締役
北畑 隆生

取締役
山内 拓男

(注)※印は、各事業部門長であります。

監査役(常勤)
大越 年祝

監査役(社外監査役)
池田 義一

監査役(社外監査役)
沖本 隆史

監査役(常勤)
宮崎 純

監査役(社外監査役)
佐々木 茂夫

会社の概要

(平成23年3月31日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 227,869名
- 従 業 員 数 9,933名

事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号
☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号
☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・
新潟(新潟市)・北陸(富山市)・
四国(高松市)・中国(広島市)・
九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海 外 ニューヨーク・シンガポール・上海

(注)「海外」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 〈鉄鋼〉加古川・神戸・高砂

〈溶接〉藤沢・茨木・西条

〈アルミ・銅〉真岡・長府・大安

〈機械、資源・エンジニアリング〉高砂・播磨

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

株式をどちらにお預けですか？

※ご一読ください

このページをご一読いただき、ご確認くださいませようお願いいたします。

1. 証券会社にお預けでない株式について

証券会社にお預けになっていない当社株式は、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」にて管理しております。「特別口座」では単元株式の売買はできません。証券会社にお預けでない株式について、証券会社の口座に移管することをお奨めします。(手続きの詳細は **3.** をご覧ください。)

2. 特別口座で管理されている株式の有無の確認のお願い

次のような場合は、ご所有株式の全部または一部が「特別口座」にて管理されている可能性があります。

① お手許に「株券」をご所有のまま証券会社にお預けになっていない場合

② 登録株式の場合(当社が株券を発行することなく、ご所有されていると株主名簿に“登録”のみさせていただいた株式)

※平成元年3月末時点の株主様には、同年5月18日に、1,000株につき30株を②の登録株式の形で交付しております。平成元年3月末以前から引き続いて当社株式をお持ちいただ

いている株主様、ご所有株式を過去に全て売却もしくは譲渡されたご認識にもかかわらず、現在も当社から株主様宛の各種書面が届く方につきましては、現在、特別口座で管理されている株式をお持ちの可能性がございます。

③ 配当金関係書類に記載の所有株式数と、証券会社にお預けの株式数が異なる場合
(同封の配当金関係書類の“ご所有株式数”の欄をご確認下さい。)

3. 「特別口座」から証券会社の口座への株式の移管の方法

証券会社に口座を
開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設の必要はありません。



三菱UFJ信託銀行に、
振替用の請求用紙を
請求する。



送られてきた請求用紙に
必要事項を記入・押印して、
三菱UFJ信託銀行に
送付する。



これで
手続きは
完了です。

証券会社の口座に
株式が移管されます。

<特別口座についてのお手続きお申込み先・お問い合わせ先>

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777



工場見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。
今回ご覧いただく工場は、鑄鍛鋼品や機械を製造しております高砂製作所(兵庫県高砂市)でございます。つきましては、下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



見学工場: 高砂製作所
 (兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3-1)

対象者: 平成23年3月31日現在、当社株式
 1,000株以上をご所有の株主様

工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成23年)	集合場所	集合時刻	解散場所・予定時刻
①	11月17日	JR加古川駅近辺	8:50	JR加古川駅近辺 13:00頃
②	11月17日	JR加古川駅近辺	13:30	JR加古川駅近辺 17:40頃
③	11月18日	JR加古川駅近辺	8:50	JR加古川駅近辺 13:00頃
④	11月18日	JR加古川駅近辺	13:30	JR加古川駅近辺 17:40頃

※JR加古川駅は、JR山陽本線(JR神戸線)沿線

※JR加古川駅までの所要時間:JR三ノ宮駅から新快速で約30分
 JR大阪駅から新快速で約50分

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

募集人数: 240名(各回60名) ※募集人数には同伴者を含みます。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。
 ※ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。
 抽選の結果は8月末にご通知する予定です。

※同伴者は1名までとさせていただきます。

※以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。

- 株主様ご本人からのご応募でない場合
- 同伴者様を2名以上ご記入の場合
- 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
- 株主1名様につき、2枚以上ご応募された場合

応募方法: 同封のはがきに必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

【締切日:平成23年7月26日(火)到着有効】

参加費: 無料

※ただし、集合・解散場所(JR加古川駅)までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

お問い合わせ先: 株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係
 TEL 078-261-4067

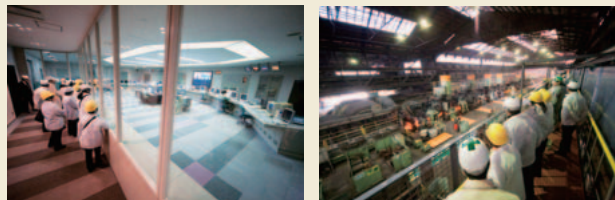
受付時間 10:00~17:00(土日、祝日、その他会社の休業日を除く)

これまでの株主様工場見学会開催状況のご報告(過去5回分)

当社では、株主様工場見学会を7回開催してまいりましたが、いずれの回も、全国から多数のご応募を頂戴しております。毎回多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、今回も皆様のご応募をお待ちしております。

〈これまでの開催実績(過去5回分)〉

	日時	開催場所	募集人数	ご応募総数
第3回	平成21年 3月	真岡製造所	160人	1,150通
第4回	平成21年 11月	高砂製作所	240人	2,890通
第5回	平成22年 3月	加古川製鉄所	300人	3,318通
第6回	平成22年 11月	真岡製造所	160人	1,216通
第7回	平成23年 3月	神戸製鉄所	200人	3,935通



工場見学会の様子(神戸製鉄所)

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告
(当社ホームページをご覧ください。)

<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土・日、祝日を除く9:00～17:00

KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、無塩素漂白による、古紙パルプ15%、植林木・間伐材パルプ85%の用紙と、植物油-インキを使用しています。